

脳科学研究科公開講演会

「神経難病の克服に向けて-神経疾患研究の現在と治療、創薬」 開催報告

3月29日、京田辺キャンパス恵道館201番教室において、脳科学研究科主催、京田辺市、木津川市、精華町、(公財)関西文化学術研究都市推進機構の各団体からの後援による脳科学研究科公開講演会「神経難病の克服に向けて-神経疾患研究の現在と治療、創薬」を開催した。

認知症をはじめとする神経疾患の患者は高齢化社会を迎えている日本において、増加しているが、発症原因についてはよくわかっていないのが実状である。より良い治療法の開発に社会の期待が高まるなか、本講演会では、いわゆる神経変性疾患のうち、アルツハイマー病、パーキンソン病等について、現在の研究とその治療方策や創薬への展望について、一般向けにわかりやすく解説するというものであった。

講演会では御園生裕明脳科学研究科教授からの研究科紹介、渡辺好章副学長・脳科学研究科長からの挨拶の後、学外からの招へい者を含めた3名の講師がそれぞれ、「アルツハイマー病治療の2つの方向」(井原康夫脳科学研究科教授)、「パーキンソン病-病態解明の試み」(藤山文乃脳科学研究科教授)、「ゲノムから神経変性疾患を読み解く-分子病態機序の解明から根本的治療へ」(辻省次東京大学医学部教授)のテーマで講演を行い、最後に、聴衆からの質疑応答を行って、まとめとした。

事前申込制でかつ年度末のあわただしい時期にも関わらず、当日は150名もの参加者があった。質疑応答でも何人もの聴衆から熱心な質問があり、講師との間で積極的なやり取りがなされるなど、充実した講演会とすることができた。

